令和元年度事業報告書

特定非営利活動法人地球緑化センター

2019.4.1～2020.3.31

ボランティアに参加することが、自然への謙虚な姿勢を育み、自身の生き方を見つめる機会になってほしい…。そのような思いを『緑、人を育む』というテーマに込めて、自然や地域、そして人を結ぶつなぎ役として活動しています。

▶目次

P.1-2　…　緑のふるさと協力隊事業

P.3-4　…　体験交流事業

P.5　…　広報ＰＲ事業

p.6　…　令和元年度活動計算書

１．緑のふるさと協力隊事業

若者の長期農山村貢献活動。26 年間で 786 名が参加。
総務省「地域おこし協力隊」のモデルにもなったプログラム。

（１）第 26 期緑のふるさと協力隊の派遣

▶派遣人数 11 名（男性 3 名、女性 8 名）
内訳：社会人 7 名、学生 4 名（うち休学 2 名）
平均年齢：25.2 歳　受入自治体数：11 市町村

■4月　事前研修

☆ボランティア活動

地域の方と一緒に、神社や生活道の清掃を行った

☆フィールドワーク
地域の方から集落での暮らしについてお話を伺い、地元の人が気付かなかった地域の良さ・魅力、また抱えている課題などを自分たちの言葉で模造紙1枚にまとめた。

■5月　受入先担当者会議

受入先担当者が一堂に会し、協力隊を受け入れる良さ、不安・悩み、疑問点を共有した。

☆グループディスカッション
「若者を地域につなぐために～OBOGの体験談。」

☆意見交換
「関係人口の視点から緑のふるさと協力隊を考える」

■6～7月　事務局現地訪問

☆職員が派遣先を訪問。
隊員、受入先担当者、活動先の方との面談、活動見学。

■9月　中間研修

☆隊員同士の情報交換

☆グループディスカッション
後半の活動にむけての目標設定

≪隊員が見つけた地域の「たから」≫

豊かな自然とそこにあるもので暮らす知恵。野のもの、山のもの、畑のもの、味わって美味しい食。春夏秋冬ハッキリしていて目で見て感じて癒される自然に囲まれていた。

生活の中に「山の恵」が与えられている。山菜やキノコ類、保存食などの食べ物、雪解け水、景観、山地ならではの畑作りや厳しい冬を過ごすための道具など文化や知恵にも生かされている。

≪仕事観や人生観の変化≫

今まで考え方の物差しは「お金」と「効率化」がメインだったけど、お金に換算できない活動をしていくうちに『世の中お金じゃ計れないものがある』と体感。お金がなくても信頼と知恵、あとは健康があれば生きていける手ごたえを得た。

これまで自分のなかに「こうでなければならない」との想いがあったが、この考え方が何事も可能性を狭めていたと感じた。もっと気楽に純粋に感じること、楽しむことが大切だと思えるようになった。

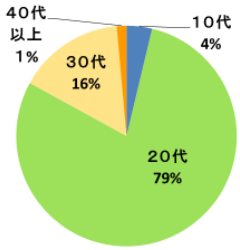
■3月　総括研修

☆個人発表
「1年間を振り返って」

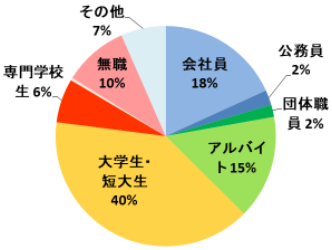
豊かな自然、集落の結びつき、出会った人々の魅力、農山村のこれから……など、隊員の目線で捉えて感じたこと、考えたことについて発表。

※活動報告会「エキサイト☆ふるさと2020」は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い開催中止

緑のふるさと協力隊のこれまで



参加者の年齢層



参加前の職業

延べ参加者数：786名（第1期～第26期）
延べ受入先自治体数：106自治体

（2）「若葉のふるさと協力隊」（短期体験プログラム）の実施

▶農山村で暮らしてみたい、活動してみたいという農山村と関わるきっかけを求めている人や、「緑のふるさと協力隊」に興味を持っている若者たちを対象に、農山村での暮らしを体験できる機会を提供した。緑のふるさと協力隊員、協力隊 OBOG が企画・運営。4 泊 5 日、13 地域で開催。

▶ 参加者：42 名（男性 19 名、女性 23 名）

内訳：大学・大学院生…31 名、専門学校生…6 名、会社員等…5 名

（3）令和 2 年度（第 27 期）へ向けて

★募集説明会実施　（主要都市 4 カ所 7 回）
→経験者の声を多く聞ける場としてイベント形式で企画
★学校・団体
①学校での講義・説明会（7 校、7 回）
②学校・団体訪問（専門学校、大学ボランティアセンター、就職課、ハローワーク、就農・移住相談関連団体等）
★インターネット
①フェイスブック広告実施　②web 掲示板への投稿
③求人サイト「日本仕事百貨」記事掲載
④SNS への投稿（Facebook、Twitter、Instagram、note）
⑤緑のふるさと協力隊特設サイトへの投稿

第 27 期緑のふるさと協力隊

12 市町村・13 名派遣（男 9 名、女 4 名）
社会人：11 名、学生 2 名（内、休学 2 名）

２．体験・交流事業

（１）森林ボランティア（山と緑の協力隊）の実施

▶国有林・公有林をフィールドとした市民参加の森林づくり活動。
24 年間で 300 回以上のプログラムを開催、のべ 2 万人が参加。

■赤沢プログラム

長野県・赤沢自然休養林
樹齢 300 年のヒノキの森づくり（1 泊 2 日）

☆世界的にも貴重で希少な木曽ヒノキの森を後世に伝えていくための活動。（ヒノキの除伐・間伐、自然散策、森林教室）

＜参加者の感想＞
・一本の木を切り倒すのにあれだけの労力と時間がかかるとは想像以上だった。
・伊勢神宮の御神木として切り出されていることなど、勉強になった。
・間伐した後は光の入り方が違っていた。

■三宅島復興植林プログラム

東京都・三宅島
噴火で立ち枯れた森の再生
（船中 1 泊・現地 1 泊 2 日）

☆2000 年に起きた三宅島の噴火の跡地に緑の大地の復活を願っての活動。（植林、島内散策、森林教室）

＜参加者の感想＞
・見た目は緑が沢山ありそうな島でも草ばかりで樹木の再生にはまだまだ時間がかかるのだなと思った。
・風雨で当初のスケジュール通りではなかったが、それはそれで色々と体感することができた。

■湘南海岸林ボランティア

神奈川県・湘南海岸林
湘南の街を守る砂防林の整備（日帰り）

☆海岸からの飛砂や塩害から、湘南の街を守っている砂防林を守り、育てる活動。（海岸林の整備（下草刈り、間伐、つる切り）、苗圃の草取り）

＜参加者の感想＞
・様々な年代の人と話をしながら作業をすることができて楽しかった。
・リフレッシュすることができた。
・ヘルメットを着用することや、常に周りを気遣っていて安全に体験できた。

■「森林・竹林・里山を整備する仲間の会②」との連携・協力

■日本大学サークル「森友」への活動支援

（2）企業における社会貢献活動、CSR、社内研修及び交流活動の支援協力

企業・団体名	活動場所	活動内容
メタウォーター株式会社	東京都奥多摩町	新入社員研修　除伐、植樹など
日本エア・リキード株式会社	岩手県陸前高田市	植樹、防災学習
沖電気工業株式会社	静岡県伊豆市	間伐、除伐、下草刈り
電機連合	岩手県陸前高田市	植樹、防災学習、草取りなど
株式会社 LIXIL 住宅研究所	山梨県上野原市	植樹、下草刈り、間伐など

＜新入社員研修の感想＞

・植樹を経験することによって、森林を維持することがどれほど大変なことか、またその重要性を理解できた。

・この会社で働くうえで、水源林について体験することはとても重要であると思うので、全体研修のプログラムの中にあってよかった。

令和元年度参加者数

①定例プログラム（赤沢、湘南海岸林、三宅島）
計 7 回・179 名

②企業・団体プログラム　計 11 回・376 名

合計 555 名

電機連合・東北ボランティア
参加者の感想

・テレビだけでは当時の様子や、震災を今後にどう生かしていくかなど、ほとんど伝わりきっておらず、現地に足を運んで生の声を聞いてこそ分かることがたくさんあると知った。

・草取り作業のように汗をかく活動は、みんなやりがいを感じるので良い活動だ。

・防災学習で津波の恐ろしさを学ぶことができました。震災遺構を間近でみることができ、より被害の大きさを実感することができた。

（3）中国・緑化交流事業

▶団体設立の原点である中国での植林ボランティア。1993 年より中国人民政府との連携で、内モンゴル自治区伊金霍洛(エジンホロ)旗、河北省豊寧県、重慶市など 5 カ所で実施。これまでに日本から 120 回以上植林団を派遣し、約 2,500 人が参加、ポプラなど 747 万本を 5,600ha に植林。

■豊寧･緑の親善大使

河北省豊寧県での植林活動

☆植林、地域住民との交流、小学校訪問

■企業の CSR 活動

【株式会社日本触媒】

・植林地視察

・林業局との懇親

・小学校での交流事業

3. 緑の学校事業

▶児童・生徒を対象とした環境教育プログラム

訪問学習、イベント出展（紙芝居上演、クラフト作りなど）

4. 広報・PR 活動、その他

▶地球緑化センターの活動を広げていくための広報活動、関係団体との連携・協力

☆機関誌「タマリスク」、「緑の通信」発行、JICA 研修の講義、湘南ビーチサイドウォーク協力

令和元年度　活動決算書

平成31 年 4 月 1 日から 令和2 年 3 月 31 日まで

（単位：円）

科　　目	金	額	
Ⅰ　経常収益			
1　受取会費			
個人会員受取会費	1,252,000		
賛助会員受取会費	80,000		
法人会員受取会費	1,200,000	2,532,000	
2　受取寄附金			
受取寄附金	3,237,622	3,237,622	
3　受取助成金等			
受取助成金	3,184,218	3,184,218	
4　事業収益			
(1)緑のふるさと協力隊事業	17,138,050		
(2)体験・交流事業	9,777,860	26,915,910	
5　雑収入			
雑収入	156,861		
受取利息	91	156,952	
経常収益計			36,026,702
Ⅱ　経常費用			
1　事業費			
(1)人件費			
給料手当	6,886,898		
法定福利費	1,045,077		
通勤費	324,410		
人件費計	8,256,385		
(2)その他経費			
隊員生活費	6,161,925		
会議費	168,029		
消耗品費	244,988		
印刷製本費	1,117,113		
通信運搬費	799,485		
地代家賃	1,729,642		
旅費交通費	2,431,389		
諸謝金	596,116		
保険料	266,550		
研修費	4,488,133		
資材費	1,806,698		
中国事務所運営費	600,000		
リース料	544,320		
雑費	1,910,221		
その他経費計	22,864,609		
事業費計		31,120,994	
2　管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	1,433,777		
退職給付費用	604,800		
法定福利費	132,307		
通勤費	291,980		
人件費計	2,462,864		
(2)その他経費			
会議費	3,809		
消耗品費	159,221		
印刷製本費	46,440		
通信運搬費	100,732		
地代家賃	713,318		
旅費交通費	3,500		
リース料	136,080		
新聞図書費	5,272		
雑費	91,547		
その他経費計	1,259,919		
管理費計		3,722,783	
経常費用計			34,843,777
当期経常増減額			1,182,925
Ⅲ　経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ　経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			
法人税、住民税及び事業税			
当期正味財産増減額			1,182,925
前期繰越正味財産額			7,842,816
次期繰越正味財産額			9,025,741

特定非営利活動法人　地球緑化センター

地球緑化センター（Green Earth Center：GEC）は、「自然環境と人の関わりは、双方向に影響を与えている」という視点から、人の生き方や社会の在り方を見つめてきました。環境保全・地域づくり・国際協力の分野で個人や企業、教育機関など様々な人たちへ向けて多彩なボランティアプログラムの企画・提供、情報発信をしています。自然や地域、そして人を結ぶつなぎ役として活動しています。

○　設　　立　　1993年（平成５年）　２月21日
　　法人格取得　1999年（平成１１年）９月13日

○　主な事業
（１）国内　　緑のふるさと協力隊（若者の長期農山村プログラム）
　　山と緑の協力隊（国内森林ボランティア）
　　緑の学校（児童・生徒への環境教育活動）
（２）海外　　緑の親善大使（中国での植林活動）
（３）広報　　機関誌「タマリスク」の発行
　　各種イベント出展

○　会　　員　　３００名（個人、賛助、法人）

地球緑化センターの運営は皆さまからの会費やご寄付、様々なご支援により支えられています。クレジットカード対応の寄付サイト「Syncable」は右ＱＲコードよりアクセスできます。あたたかいご支援よろしくおねがいします。

特定非営利活動法人 地球緑化センター

〒104-0028　東京都中央区八重洲２－７－４　清水ビル３階

TEL：03-3241-6450　FAX：03-3241-7629

URL：http://www.n-gec.org

Green Earth Center